

新種・キリシマギンリョウソウの県内分布を明らかにしよう！

キリシマギンリョウソウ [ツツジ科]

Monotropastrum kirishimense Suetsugu

2022年秋に新種発表されたニューフェイス。当初、九州の霧島周辺にしか分布していないと思われたためこの学名と和名があるが、2024年7月時点で関西から中部地方までであることがわかっている。

じゃあ高知にもあるがやないが？
ということで県内でのキリシマギンリョウソウの分布を明かにしようではありませんか！



キリシマギンリョウソウ

この個体はちと紅色が薄いです

がく片が花弁から離れ、ライオンのたてがみのようなになる。

がく片は花弁から離れないので、丸くころっとした印象。



ギンリョウソウ

◆ 募集する標本

以下を1セットにして植物園にご提出を！キリシマギンリョウソウが迷ったときには写真とともにご一報ください。きれいに持ち帰れそうにない場合は新聞に挟んでください。

分類のカギ：花と地下部（菌根菌の塊）

- キリシマギンリョウソウの標本×1本以上
- 調査票
- 画像 ・全体像および花のアップ
・生育環境

[注意事項]

過度の踏みつけによって消失するおそれがあります。標本や写真撮影の際、踏み荒らさないよう、不用意に歩きまわらないようご注意ください。また、必要以上の採集はやめましょう。

	キリシマギンリョウソウ <i>M. kirishimense</i> Suetsugu	ギンリョウソウ <i>M. humile</i> (D. Don) H. Hara
開花期	ピークはギンリョウソウよりやや遅い	4～5月（結実は8月まで）
花弁とがく片の色	紅色	透明～白色 ※子房の紅色が透けて見える個体もあるので注意！
がく片	4～9（～11）枚 がく片は花弁と常に密着する	2～3（～5）枚 開花のピークには開く
開花初期の花の形	丸みをおびる	やや長い
地上部高さ	5cm未満	5cm以上
地下茎長さ	10cm以上	5cm未満
根	根塊は不明瞭で周囲の土壌と一体化し、根端の突出が少ない（菌根菌の白い外殻は見える）。	根塊は土壌と区別でき、肉眼で根の先端を明瞭に認識できる。

【引用文献】 小林史郎, 2009. ギンリョウソウ属. In: 高知県・高知県牧野記念財団 (編). 高知県植物誌 pp. 387-388. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.
高橋英樹, 2017. ギンリョウソウ属. In: 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編). 改訂新版日本の野生植物 4. p. 226. 平凡社. 東京.
Suetsugu, K., S.K. Hirota, T.C. Hsu, S. Kurogi, A. Imamura and Y. Suyama, 2023. *Monotropastrum kirishimense* (Ericaceae), a new mycoheterotrophic plant from Japan based on multifaceted evidence. J. Pl. Res. 136:3-18

生育する森林。アカマツが鍵！

本種を記載した末次博士は「アカマツ林にのみ」生育すると述べています。徳島県ではアカマツ林の林縁や人工林内にアカマツがみられるようなところで見つかっています（内藤 2026）。

6月中旬、物部チームは「アカマツの生えるような、やや乾燥した尾根、斜面」と心に思い描いて探査し、確認できたそうです。

